

令和3年度 発達段階別看護論実習Ⅰ「母性看護学実習」の紹介

母性看護学の実習は、学内実習（基礎編3日、実践編4日、確認編3日）と臨地実習で構成されています。

学内実習の①基礎編では、妊婦産婦の看護、褥婦の看護、新生児の看護のグループ学習、技術演習を行います。②実践編では、電子カルテを導入し、学生2～3名で褥婦と新生児を4日間受け持ち、褥婦と新生児の看護をシミュレーションしています。シミュレーションの映像は他の学生がモニターをしており、シミュレーション後に看護を実践した学生とモニターした学生でデブリーフィングを行っています。③確認編では、客観的臨床能力試験として受け持ち褥婦の保健指導、産褥日数に応じた受け持ち褥婦の看護実践の評価を行っています。また、臨地実習として地域子育て支援拠点施設と助産院で母子保健活動の実際を学び、地域で生活する母子と家族の理解を深めています。

〔基礎編の様子〕



〔実践編の様子〕



褥婦と新生児の看護を
実践しています
この様子をビデオカメラで
映しています

隣で実践している映像を
モニターしています



母性看護学：植村裕子、木戸久美子、松村恵子